



# 新たな提案

石川県立金沢泉丘高等学校 3年 立浦 和奏

ニュースをつけると日頃からよく海外のテロ事件や難民等の様々な国際的に解決しなければならない問題についての報道が私たちの目に飛び込んできます。多くの人が殺される銃乱射事件などは残虐で撲滅すべき問題ですが、今回私は未来のために解決すべき問題として、食料問題に目を向けました。なぜなら、世界に大勢いる食料難に直面する人が、他人に攻撃されずとも飢餓や栄養失調により死を余儀なくされるという現状は堪え難いものだと思ったからです。また、私は昨年の総合的な学習の時間に農業人口減少を食いとめ、日本の農業を盛んにするための解決策について調べ学習やプレゼンテーションを行っており、農業問題に興味がありました。そして、私のグループで考えた解決策を応用すれば世界の食料問題解決の手がかりになるのではと思ったのです。

私たちの考えた農業の姿とはグループ農業です。まず、核となる親会社を設立し、そこに収支の管理や農作業の計画、農業機器の管理といった機能を集中させます。次に、その下に何人かの農家から成るグループを作ります。各グループが作ったの作物は全て親会社が回収、販売を行い、利益をグループのメンバーに還元します。グループで行い、親会社のサポートもあるため、全員が農業の知識が豊富である必要は無く、農業に興味のある若者から退職後の高齢者まで幅広く人材を確保することができ、協力すれば、従来の農家と異なり休暇も取れるという画期的なシステムです。私たちはこれを日本国内に範囲を限定したうえでプレゼンテーションを行いました。これが食料問題を抱える諸外国に応用できるのではないかと思ったのです。例えば、先進国に親会社を置きグループは現地民で構成し、親会社から農業知識を持つ人を現地へ派遣します。そして、現地の農業用地の開拓や農業技術指導等は日本にある親会社が主導して行い、作物の収穫後は幾らかは食料難解消のためにも現地民のものとし、余剰分は先程の説明と同様、親会社が回収するという流れを考えました。もしこれが実現すれば、現地の人々が食料難から抜け出せるうえ、新たな収入を得ることができるかもしれません。また、親会社の設立側も、新たな輸入先を見つけることができ、異常気象の起きがちな現代でより安定した輸入を行うことが可能になります。このように、このシステムの実現は皆にとって利益があり、食料問題解決の鍵になるでしょう。

しかし、このシステムは、まだ理想論でしかありません。莫大な費用がかかる農業で採算が取れるのか、不作だった場合どう対応するのか…問題は山積しています。だからといって、そこで諦めてしまえば何も変わりません。私たちが何も行動を起こさずこうして見過ごしている間にも、多くの飢餓で苦しんでいる人々が命を落としているのです。私はこのシステムが実現可能なのか確証は持ってませんが、たとえ不可能であったとしても何か行動を起こしたいと強く思っています。そして、私一人ではとても微力なので、一人でも多くの方が可能な範囲で行動を起こしてほしいと願っています。

そのための第一歩として、私は今、農学部を志望しています。農学部に行き、今よりも農業や食料についての知識を深め、将来的にその知識を社会や世界の役に立てたいです。今回提案したシステムは、将来的に勉強した上で、改めて考えたいと思っています。そして、皆が食という当たり前の営みを当たり前に行える時代が来てほしいです。